

農薬適正使用研修会資料

- ・農薬のラベル主義とは
- ・使用基準は商品や作物でそれぞれ違います。
- ・農薬の総使用回数について
- ・栽培日誌の記入でも注意しましょう
- ・「全面土壌混和」粒剤の使い方
- ・粒剤をハウス内で土壌に施用する場合の注意事項
- ・農薬飛散(ドリフト)対策の具体的方法
- ・積極的な対策の具体例(写真)
- ・動噴や農薬等の管理

中部農業事務所伊勢崎地区農業指導センター

農薬のラベル主義とは

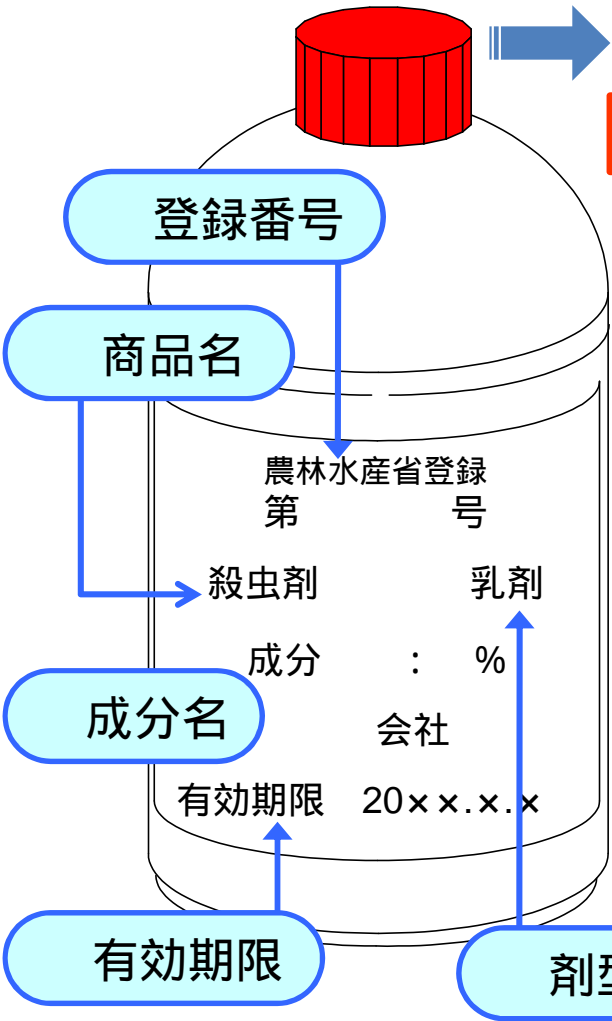
有効期限内の登録農薬のラベルに記載してある使用基準を遵守する

まずラベル表面を確認してください

ラベル裏面に適用作物と使用基準の記載があります

記載されている作物以外は使用しない

これより多く(濃く)使用しない



作物名	適用病害虫名	使用量・希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	を含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類	1000 ~ 2000	収穫 14日 前 まで	3回 以内	散布	4回以内 (定植後は 3回以内)
	コナガ					
	アオムシ					
なす	アブラムシ類	2000	収穫 前日 まで	3回 以内	散布	3回以内
	アサミウマ類					
	マメハモグリハエ					

これより遅く使用しない

この回数より多く使用しない

使用基準は商品や作物でそれぞれ違います

購入時と使用前には、毎回必ずラベルを確認して、誤使用を防ぐ

アドマイヤー (イミダクロプリド)の 場合 剤型と成分割合 によって適用と 倍率が異なる例	作物名	アドマイヤーフロアブル (有効成分20%)	アドマイヤー顆粒水和剤 (有効成分50%)
	ほうれんそう	4000倍	10000倍
	オクラ	4000倍	適用なし
	はくさい	4000倍	10000倍
	だいこん	4000倍	適用なし
	ねぎ	2000～4000倍	5000倍
	たまねぎ	適用なし	5000～10000倍
モスピラン顆粒水 溶剤(アセタミプリド) の場合 作物によって希釈 倍率が異なる例	2000倍	4000倍	8000倍
	ブロッコリー	茎ブロッコリー	しゅんぎく
	たまねぎ	えだまめ	ほうれんそう
	ねぎ	オクラ	
	トマト	にら	
		非結球あぶらな科葉菜類	など

この農薬情報は平成23年1月1日現在の登録内容です(以後変更の可能性あり)

農薬の総使用回数について

作物ごと、「本剤」と「有効成分」ごとに総使用回数が決めている

TPN(クロタロニル)の場合

作物	有効成分の総使用回数
きゅうり	10回以内(ただし土壌灌注は2回以内、散布及びくん煙及びエアロゾル剤の噴射は合計8回以内)
なす	4回以内
トマト	4回以内(ただし土壌灌注は2回以内)
ミニトマト	2回以内
ブロッコリー	3回以内(ただし土壌灌注は1回以内、散布は2回以内)
だいこん	3回以内
ねぎ	4回以内(ただし土壌灌注は1回以内、散布は3回以内)

TPNを含む 農薬名

ダコニール1000

アミスターオプティフロアブル

ドーシャスフロアブル

フォリオブラボ顆粒水和剤

プロポーズ顆粒水和剤

ブリザード水和剤 など

この農薬情報は平成23年1月1日現在の登録内容です(以後変更の可能性あり)

栽培日誌の記入でも注意しましょう



これら3つの農薬はすべて「TPN」を含む

トマトの「TPN」の総使用回数は4回以内

この欄の「使用回数」とは「本剤の使用回数」を指している

トマトの栽培日誌記入例

上段:農薬名 下段:成分名	倍率または 使用量	収穫前 日数	使用 回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
				上段:月日 下段:倍率または使用量				
ダコニール1000 TPN	1000倍	1日	4回	10/5 1000				* / * ***
ドーシャスフロアブル TPN, シアゾファミド	1000倍	1日	4回	10/26 1000	1/31 1000			* / * ***
プロポーズ顆粒水和剤 TPN, ベンチアバリカルイソプロピル	1000倍	1日	3回	12/8 1000			* / * ***	* / * ***

有効成分は農薬名の下に記載されている

農薬を使用した日と倍率を記入していくと…

1/31までで「TPN」を含む農薬を4回使用したので、これより後に「TPN」を含む農薬は使えない

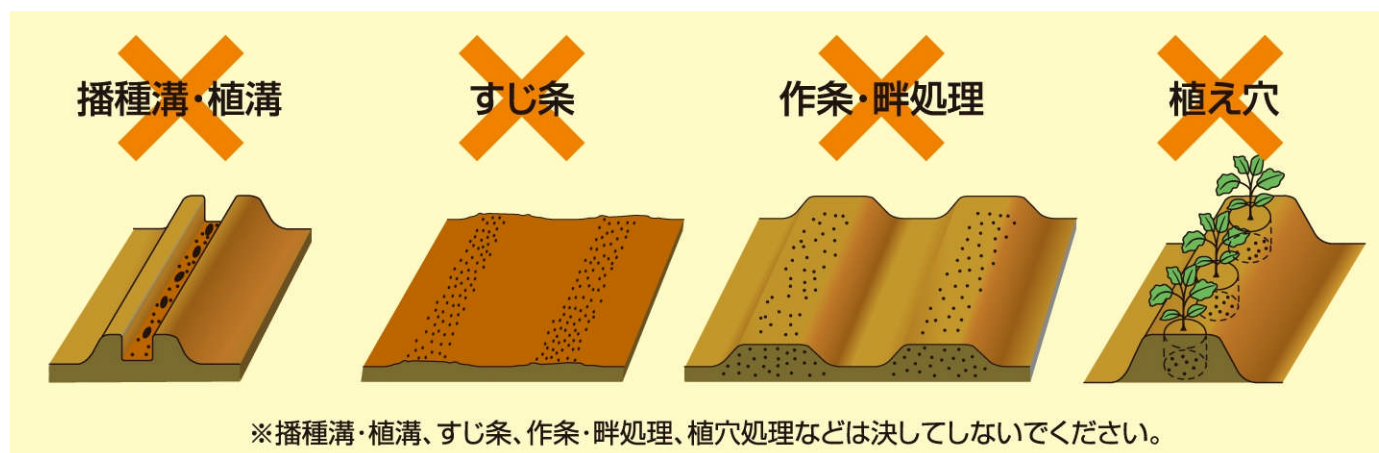
この農薬情報は平成23年1月1日現在の登録内容です(以後変更の可能性あり)

「全面土壌混和」粒剤の使い方

1. 適正量の薬剤を、ほ場全面に均一に散布する。
(散布ムラがないように)
2. 散布後、土壌中に薬剤が均等に分布するよう表層から20cm程度の深さまで、混和ムラが無いように丁寧に土壌と混和する
(2回混和をお勧めします！)。
3. 混和時の過剰な水分は、混和ムラの原因となるので、処理時の土壌水分に注意する。



誤った使い方



粒剤をハウス内で土壌に施用する場合の注意事項

大型ハウスの支柱回り

ハウスのサイド際



耕耘が良くできない
(= 土壌中に均等に
混和できない)場所へ
は薬剤を散布しない

化学農薬施用の代替技術

土壌還元消毒、太陽熱消毒、緑肥のすきこみ等

農薬飛散(ドリフト)対策の具体的方法

風の弱い時に風向に注意して散布
散布の方向や位置に注意
散布圧力を上げすぎない
適切なノズルを用いる

基本操作

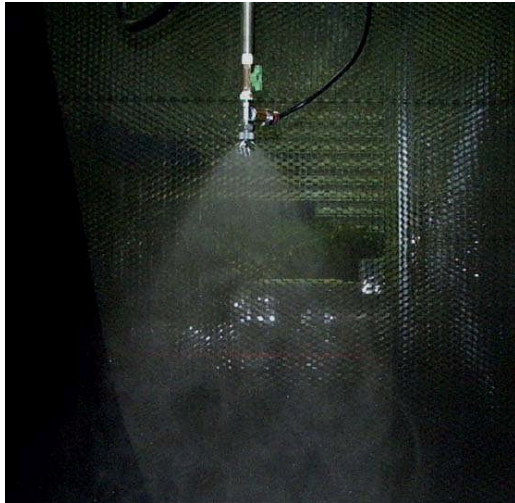
【ドリフトを減らして散布する】

ドリフト低減ノズルを用いる
緩衝地帯、遮蔽シート・植物の栽植設置
ドリフト事故を起こしにくい農薬を使用する
近接作物栽培者との連携を密にする

【積極的対策】

単独の対策ではその効果に限りがあるため、
幾つかの方策を合わせて十分な防止効果を得る。

積極的な対策の具体例(写真)

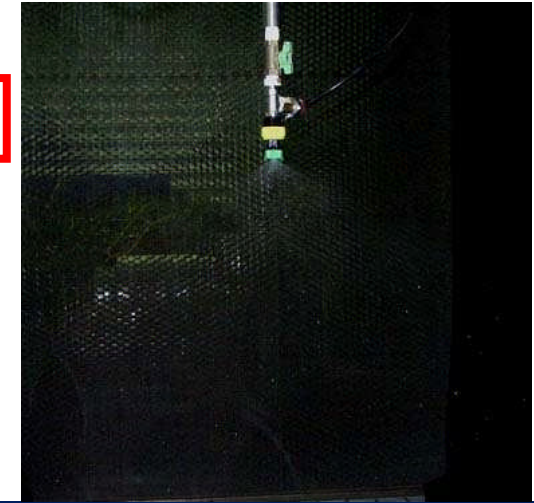


慣行ノズル(拡大図)



慣行ノズル

ドリフト低減ノズル



ドリフト低減ノズル(拡大図)



遮蔽作物の利用



遮蔽シートの利用

動噴や農薬等の管理

- ・農薬は一回で使い切る。
- ・タンクや動噴、ホースの洗浄をしっかりと行う。
- ・農薬が付着した手、衣服で作物を扱わない。
- ・農薬の保管・管理の徹底(保管庫・整理)。

カギのかかるケース内に保管

